平成 27 年度
横須賀美術館　活動状況中間報告書

～より多くの方に愛される美術館に～

平成 27 年（2015 年）11 月

横須賀美術館

Ⅰ　美術を通じた交流を促進する

①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1　展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスのとれた企画展を実施します。

⇒*下表のとおり、上半期終了時点での観覧者数は、見込み数をかなり上回っており、10月以降も順調に推移しています。10万人という年間観覧者数を達成するのはほぼ間違いない状況です。目標とする観覧者数により上乗せしていけるよう、今後も努力していきます。*

【展覧会及び観覧者数】

展覧会名	会期	見込	*実績*	*達成率*
生誕110年　海老原喜之助展	4/1-4/5	1,000	*1,664*	*166.4%*
ほっこり美術館	4/18-6/14	15,000	*21,783*	*145.2%*
ウルトラマン創世紀展	6/27-8/30	30,000	*32,694*	*109.0%*
没後10年「長新太の脳内地図」展	9/12-11/3	18,000	－	－
横須賀製鉄所（造船所）創設150周年記念事業 浮世絵にみるモダン横須賀＆神奈川	11/14-12/23	13,000	－	－
第68回児童生徒造形作品展	1/9-1/25	15,000	－	－
嶋田しづ・磯見輝夫展	2/6-3/31	6,000	－	－
所蔵品展のみの期間	上記以外	6,000	*3,006*	*50.1%*
計		104,000	*59,147*	*56.9%*

2　広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

（1）訴求活動による集客促進

・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

⇒*展覧会毎に発送　1展覧会につき約350件*

（このほか学校等施設へのちらしの送付　約1,500件）

⇒*取り扱い件数*

「ほっこり美術館　24件」

テレビ1件、ラジオ2件、新聞3件、雑誌7件、その他11件

「ウルトラマン創世紀展　38件」

テレビ2件、ラジオ2件、新聞8件、雑誌8件、その他18件

⇒*前年度と比較すると、件数は若干下回っていますが、今後も効果的なパブリシティを展開していきます。*

・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信

⇒*広報よこすかに毎月掲載（展覧会やワークショップなどの情報）、*

yokosuka ほっとナビ（市広報番組）、

What’s New in Yokosuka（外国人向け広報紙）

⇒*他部局の広報媒体を積極的に活用した情報発信に努めていきます。*

・公共交通機関への広告掲出

⇒*京急線　窓上、駅貼り（企画展毎に掲出）、*

京王線　駅貼り（ほっこり展、ウルトラマン展）（嶋田・磯見展予定）

東急東横線　窓上（ウルトラマン創世紀展）

・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信

⇒*ホームページでの情報発信（展覧会毎の作成）*

⇒*ツイッターでの情報発信（展覧会情報や美術館周辺情報など）*

フォロワーは少しずつ増え 4,000 人に近づいています。

今後も展覧会情報に加えて、周辺情報などフォロワーに面白いと思ってもらえる情報を発信していきます。

⇒*フェイスブック運用開始（谷内六郎館 7/31～、横須賀美術館 9／9～）*

ＳＮＳ毎の特性を生かした情報発信に努めていきます。

・インバウンド推進の第一歩としての英語版パンフレット作成・配布

⇒*米海軍横須賀基地へ今年度中に配布予定*

（２）イベント開催など企画展以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

・コンサート等、各種イベントの開催

⇒*コンサート　12 月にクリスマスコンサート開催予定*

⇒*マジックワークショップ（10/31 予定）開催*

・年間パスポート、前売り券の販売

⇒*販売枚数と利用回数（9 月末現在）*

	販売場所	*販売枚数*	*利用回数*
パスポート	*美術館*	*291 枚*	*1,021 回*
	芸術劇場	*11 枚*	
	計	*302 枚*	
前売り券	*美術館*	*79 枚*	*176 回*
	芸術劇場	*138 枚*	
	計	*217 枚*	

・ユニークベニュー※など新たな活用方法の調査、研究

⇒*他の施設での事例などを研究中*

※ ユニークベニュー･･･歴史的建造物や公的空間等で、会議・レセプション等のイベントを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場

（３）外部連携の推進

①他部局との連携

・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信

⇒*カレーフェスティバル（5／9-10）や産業まつり（11/7-8）などへの協賛*

・米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒What's New in Yokosuka（外国人向け広報紙）への展覧会情報の掲載
・横須賀製鉄所（造船所）創設 150 周年記念事業の一環としての博物館、文化振興課等との共同イベントの開催
⇒記念事業の一環として企画展（浮世絵展）、特別展示（モンゴルフィエ関連資料）、スタンプラリーの開催

②民間事業者との連携
・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
⇒広報協力（京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ　ほか）
⇒横浜国立大学学園祭（清涼祭　5/23-24、常盤祭 10/31-11/2）、
日本大学学園祭（法桜祭 11/１-３）、
大人のための文化祭（10/11 に浦賀で開催のアートイベント）への協賛
⇒日産スタジアムの横浜Ｆ・マリノス戦へのブース出店（８/29）
・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
⇒ＪＡＦ、ＪＴＢベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会
神奈川県市町村職員共済組合　など

③近隣地域との連携
・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
⇒町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館ＰＲ
・観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施
⇒検討段階
・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
⇒ガリバーコンサート（７/12）開催（ガリバープロジェクト）
⇒観音崎フェスタへのブース出店（11/３予定）
・地域での消費活動を促進する取り組みの検討
⇒繁忙期ケータリングへの近隣事業者の新規出店（８/23･29、11/３予定）

（４）団体集客の推進
・市内民間事業者と連携した企画（ツアープランなど）の検討、提案
⇒観覧者数 100 万人突破記念イベントを検討中（来年３月頃予定）
・旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
⇒旅行事業者営業訪問
（クラブツーリズム、小田急トラベル、朝日旅行、京急観光）
経済部主催の観光商談会（７/15）への参加
⇒募集型企画旅行による観覧者が昨年度に比して大幅に減少しています。自衛隊の護衛艦に乗船するツアーの中で美術館を組み入れていただきましたが、今年度、護衛艦の受け入れなくなったことが大きな要因です。今後、新たな団体集客のための方策を検討していきます。
・ウェルカムトークの実施
⇒今年度、募集型企画旅行は少ないが、希望に応じて実施
会津若松市ジュニア大使（８/５）
ミス・インターナショナル（10/25 予定）

（５）商業撮影の受入と誘致
・ドラマや映画、雑誌等の商業撮影の受入
⇒テレビ２件、商品の販促用ＰＶ２件、雑誌９件

・撮影者側のニーズに対応した誘致の実施

⇒早朝からの対応など、可能な範囲での受け入れ

⇒昨年度、商業撮影の受け入れが大幅に増えたため、それに比べると今年度の件数は若干下回っています。今後も当館のＰＲに繋がる撮影については積極的に受け入れていきたいと考えています。

【達成目標】　年間観覧者数　100,000 人以上

［目標設定の理由］

・「横須賀市立美術館基本計画」（平成 12 年６月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を 10 万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き 10 万人前後で推移しています。

・そのため当館では、まず観覧者目標を 10 万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。

・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

・平成 27 年度は、これまで毎年達成すべき観覧者数としてきたミニマムライン 10 万人以上を達成目標とします。

年間観覧者目標に対する達成状況　（単位：人）

年　度	平成 25 年度	平成 26 年度	*平成 27 年度（９月末現在）*
目標（A）	104,000	102,000	*100,000*
実績（B）	101,841	113,007	*65,875*
達成率（B／A×100）	97.9%	110.8%	*65.9%*
(参考)来館者数実績	220,696	242,833	*142,926*

※　観覧者数･･･観覧券の発券数を根拠とした計算値。
　　来館者数･･･本館の２か所の出入り口に設置しているオートカウンターによる計測値。

展覧会名	*期　間*		*日　数*		*企画展＋所蔵品展計（人）*			
	開始	*終了*	*全日数*	*実日数*	*来館者*	*観覧者*	*観覧者内訳*	
							有料	*無料*
海老原喜之助展	*4/1*	*4/5*	*5*	*5*	*3,428*	*1,664*	*942*	*722*
ほっこり美術館	*4/18*	*6/14*	*58*	*56*	*48,520*	*21,783*	*17,003*	*4,780*
ウルトラマン創世紀展	*6/27*	*8/30*	*65*	*63*	*66,217*	*32,694*	*18,878*	*13,816*
企画展計			*128*	*124*	*118,165*	*56,141*	*36,823*	*19,318*
企画展展示替え期間	*4/6*	*4/17*	*12*	*11*	*2,862*	*904*	*763*	*141*
	6/15	*6/26*	*12*	*12*	*3,199*	*1,093*	*939*	*154*
	8/31	*9/11*	*12*	*11*	*3,074*	*1,009*	*743*	*266*
展示替え期間計			*36*	*34*	*9,135*	*3,006*	*2,445*	*561*
総　　計			*164*	*158*	*127,300*	*59,147*	*39,268*	*19,879*

【実施目標】

・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

［目標設定の理由］

・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのＳＮＳを活用していきます。

1　パブリシティによる取り扱い件数

（単位：件）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	*平成 27 年度（9月末現在）*
新聞	42	53	63	*22*
雑誌	52	64	85	*34*
Web	35	21	34	*21*
フリーペーパー	35	47	62	*32*
書籍	7	10	7	*2*
会報誌	14	5	8	*6*
TV	16	13	16	*5*
ラジオ	6	1	6	*4*
その他	0	1	4	*0*
合計	207	215	285	*126*

2　美術館公式ツイッターのフォロワー数等の実績（年度末）

（単位：件）

	平成 24 年度	*平成 25 年度*	*平成 26 年度*	*平成 27 年度（９月末現在）*
フォロワー数	*701*	*1, 468*	*2, 338*	*3, 786*

※　1週間毎にフォロワー数を記録しているため、毎年度 3/31 現在の数字ではありません。

3　募集型企画旅行による観覧数

	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度（9 月末現在）	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
企画展	1	22	6	169	4	94	3	93
所蔵品展	29	1,233	63	2,968	61	2,186	0	0
合　計	30	1,255	69	3,137	65	2,280	3	93

4　商業撮影の受け入れ件数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度（9 月末現在）
撮影件数（件）	22	23	45	13
使用料（円）	677,500	1,970,500	2,661,751	610,070

※　平成 25・26 年度に多くの収入があったのは、新車の発表会による使用 1 回で、110 万円以上（平成 25 年度 1,142,000 円、平成 26 年度 1,112,928 円）の収入があったためです。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

（1）ギャラリートークボランティア　　年 50 日程度

所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 50 回)

＊研修を実施します。（５回）

⇒8 回の研修を行い、25 回のギャラリートークを実施しました。計 40 日、延べ 148 名が活動しています。

（2）小学校鑑賞会ボランティア　　年 50 日程度

小学校美術館鑑賞会で来館する小学６年生の受入れ､鑑賞補助をします｡(約 42 回)

＊研修を実施します。(10 回)

⇒4 回の研修を行い、16 校の受入れに参加しました。計 20 日、延べ 67 名が活動しています。

（3）みんなのアトリエボランティア　　年 12 日程度

障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。

⇒6 回実施し、延べ 13 名が活動しています。

（4）プロジェクトボランティア　　年 30 日程度

ボランティアイベントの企画・準備・実施をします。

時期：ＧＷ、夏休み、12 月の３回

⇒「ダンボールタウン」(4 月 29 日)、「どろんこキャンバス 2」(8 月 23 日）を開催しました。現在は、12 月 20 日の開催に向けて準備をしています。計 19 日、延べ 130 名が活動しています。

（5）プロジェクト当日ボランティア　　年６日程度

プロジェクトボランティアが企画したイベントの補助をします。

⇒イベント当日だけでなく、準備作業への参加を含め計 6 日、延べ 15 名が活動しています。

美術館ボランティアの活動日等一覧

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT:毎週日曜日 研修:日曜日	隔年4～5月 ＊27 年度は 募集なし	年間5回	1 年間(更新有)
(2)	6月～3月の平日 研修:木曜日	毎年4～5月	年間 10 回	1 年間(更新有)
(3)	毎月第3土曜日	随時	なし	1 年間(更新有)
(4)	原則として毎月第2･4土曜日、イベント開催日	随時	なし	1 年間(更新有)
(5)	年3回程度	イベントごと	なし	イベント当日限り

【達成目標】　市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,000 人
（事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して）

［目標設定の理由］

・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の１つとなるものです。

・新規に活動に加わる人がいるいっぽうで、継続的に活動していた人が引退するケースも散見され、担い手の数は全体として横ばいとなっています。

・ギャラリートークボランティアは、27 年度は新規募集を行わないため、研修の回数は 26 年度より少なくなります。

・小学校鑑賞会ボランティアは、年度毎の募集となるので（継続も可能です)、参加者の増加を期待したいところです。

・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは２～３名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。

・プロジェクトボランティアの活動では、平日の活動がやや増えています。また近年、イベントへの一般参加者数は、スタッフの人数と会場のキャパシティからみて、安全に楽しむことのできる限界に近付いていると考えられます。

・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、27 年度の目標は、延べ 2,000 人とします。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数　（単位：人）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	*平成 27 年度（9 月末現在）*
ギャラリートークボランティア	392	477	323	*148*
小学校鑑賞会ボランティア			194	*67*
みんなのアトリエボランティア			28	*13*
ギャラリートーク参加者	309	326	345	*206*
プロジェクトボランティア	258	337	229	*130*
プロジェクト当日ボランティア			50	*15*
企画イベント参加者	1,116	1,434	1,086	*812*
計	2,075	2,574	2,255	*1,391*

【実施目標】

・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。

・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

［目標設定の理由］

・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。

・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

Ⅱ　美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1　展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

（1）企画展･･･幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、６回開催を予定しています。今年度は、春には多くの人に親しみをもたれるテーマ展で、夏にサブカルチャーをテーマにした展覧会、秋に親子向けの絵本展を準備しています。また、他に横須賀をテーマにした展覧会や現代美術、毎年開催している「児童造形作品展」を予定しています。

ⅰ　ほっこり美術館

4 月 18 日（土）～6 月 14 日（日）

・従来、「美」を基準に語られてきた美術作品を、現在の感性を反映した「ほっこり」をキーワードに、鑑賞者の感覚や心情から捉えなおすことで、日本人の感性を再考します。

⇒埴輪、大津絵、日本画、近代洋画から現代アートまで、見る人が「ほっこり」と心温まるような作品を展示し、優れた美術作品を、楽しみながら身近に鑑賞できる展覧会となるよう努めました。観覧者数は 21,783 人で目標の 15,000 人を上回りました。

ⅱ　ウルトラマン創世紀展

6 月 27 日（土）～ 8 月 30 日（日）

・撮影で使用されたウルトラマンなどのマスク、怪獣などの小道具類、当時の販売グッズなどによって、ウルトラマンシリーズの魅力を再発見しようとするものです。

⇒展示資料やキャプション内容が定まっているなかで、各パート、シリーズのボリュームを調整し、立人形等でメリハリをつけ、バランスよく観られるように配慮しました。面白い、懐かしいだけではなく、貴重な資料から新たな発見を得る展覧会となったと考えます。放映時に子どもだった 40 代～50 代の男性、家族連れを中心に、広い世代の多くの方にお楽しみいただき、観覧者数は目標を超える 32,694 人となりました。

ⅲ　没後 10 年「長新太の脳内地図」展

9 月 12 日（土）～11 月 3 日（火・祝）

・絵本や子どもの本の原画のほか、大人向けの漫画やイラストレーション、エッセイなどをまとめて紹介し、長新太の斬新な発想の源を改めて探ります。「第２次横須賀市子ども読書推進計画（第２次愛読プラン）」に位置付けられた事業です。

ⅳ　横須賀製鉄所（造船所）創設 150 周年記念
浮世絵にみるモダン横須賀＆神奈川―斎藤コレクションから
11 月 14 日（土）～12 月 23 日（水・祝）

・横須賀製鉄所（造船所）150 周年を記念して、日本の近代化の窓口として発展していく横須賀・神奈川の様相を、斎藤コレクションからえりすぐった浮世絵 250 点から探ります。

ⅴ　第 68 回児童生徒造形作品展
平成 28 年 1 月 9 日（土）～1 月 25 日（月）

・市立の幼、小、中、高、ろう、養護、すべての学校園の子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約 3,000 点を展示します。

ⅵ　嶋田しづ・磯見輝夫展
2 月 6 日（土）～4 月 10 日（日）

・淡い色彩を用いて、軽快で透明感のある空間を作り上げる画家、嶋田しづ。墨一色の力強くプリミティブな作風を確立する版画家の磯見輝夫。長い画業を歩み続けた二人の、初期から最新作までを紹介する展覧会です。

（２）所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展 ･･･ 年４回開催

ⅰ　第 1 期所蔵品展　　4 月 25 日（土）～　7 月　5 日（日）

⇒平成 26 年度に新収蔵した横須賀出身の版画家・木村利三郎の都市シリーズを特集展示しました。また、特集展示に合わせて、横須賀出身の版画家・藤田修の小特集と、「街の情景」をテーマにした小特集を行いました。

ⅱ　第 2 期所蔵品展　　7 月 11 日（土）～　9 月 27 日（日）

⇒2 点の所蔵作品のある画家･上條陽子氏の作品を特集しました。展示室 8 に、1980 年代後半の油絵を、北側ギャラリーに近年のインスタレーション作品を展示し、その作品世界の広がりを紹介するよう、つとめました。

ⅲ　第 3 期所蔵品展　　10 月　3 日（土）～ 12 月 13 日（日）

ⅳ　第 4 期所蔵品展　　12 月 19 日（土）～平成 28 年 4 月 3 日（日）

２　教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

（１）展覧会関連の外部講師による講演会の開催　　７回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

・開催：土日　　定員：各 70 名程度（先着制）

⇒当初計画通り、展覧会ごとに順調に講演会を実施しています。5 回　285 人

・「アーティストトーク深堀隆介」参加　85 人
・「アーティストトーク鴻池朋子」参加　33 人
・「生活家電の夜明 - ’白’が輝き始めた時代」参加 20 人
・「特撮ってなんだろう？」参加 70 人
・「長新太の絵本の方法 - 編集者がみた 2 冊のラフ」　参加 75 人

（２）ワークショップの開催　　６回

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。

・展覧会に関連したワークショップ　　３回

・大人向けワークショップ　　３回

・開催：土日　　定員：各 20 名程度（事前申込制）

⇒当初計画通り、展覧会ごとに順調に講演会を実施しています。

・展覧会関連 WS　３回　62 人

「SHOWA スパイ大作戦」参加 5 組 14 名

「ジェルキャンドルで作る貝がらオブジェ」参加 11 組 30 人

上條陽子親子ワークショップ「立ち上がれ！わたしの絵！」参加 9 組 18 人

・大人向けワークショップ　1 回　20 人

オトナ・ワークショップ「ステンドグラスのオーナメントづくり」

参加 10 名×2 回

（３）映画上映会の開催　　２回

優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。

・開催：年２回　　定員：25 名×２回（事前申込制）

⇒まだ計画段階ですが、冬期に実施予定です。

（４）学芸員による企画展ギャラリートーク　　10 回

展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。

・企画展毎に１、２回程度　　開催：土日（当日自由参加）

⇒当初計画通り、展覧会ごとに順調にギャラリートークを実施しています。

（５）学芸員による展覧会観覧の案内・解説　　随時

学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

⇒団体への案内解説を要望に応じて行っています。また、今年度も「浮世絵にみるモダン横須賀＆神奈川展」にあわせ、市民大学講座と連携した事前講座の開催とツアーを予定しています。

３　美術図書室運営事業

美術図書等約２万７千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

（１）所蔵図書の充実

・一般的な美術書に加え、企画展に関連する書籍や子供向けの絵本、貴重な美術雑誌（古書）などを購入し、蔵書の充実を図ります。

・古書の補修をし、保存に適した状態にします。

⇒当初計画通り順調に実施しています。10 月現在、図書 226 冊、カタログ 313 冊、定期刊行物 337 冊を受け入れ、登録しています。

（２）美術に関する情報提供

・来館者が利用できる端末機を設置し、図書室の蔵書を検索できるようデータベースを随時更新します。

・企画展の開催に併せた関連図書の紹介を行います。

⇒当初計画通り順調に実施しています。「長新太展」では、企画展示室内に絵本の閲覧スペースをつくるなど、展示と連携した図書紹介の取り組みを進めています。

⇒エントランスと展示室に図書室利用案内や図書資料紹介のチラシを配置し、利用を促しています。毎朝の配架整理と清掃を行い、快適な利用環境を維持しています。

【達成目標】企画展の満足度 80%以上※

⇒現時点では算出していませんが、展覧会ごとでは「ほっこり美術館」展が 87.4%、「ウルトラマン創世記」展が 84.2%となっています。作品評価や配置の数値が高く、解説・順路の 2 つについての評価が低いという傾向がみられます。

［目標設定の理由］

・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。

・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。

・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。

・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を 80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Ａの観覧者数をＡ（人）、企画展Ａの満足度をａ（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は

（Ａａ＋Ｂｂ＋Ｃｃ＋Ｄｄ＋Ｅｅ＋Ｆｆ）／（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ＋Ｅ＋Ｆ）

で表します。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
企画展満足度	80.9%	77.2%	84.6%

【実施目標】

・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間６回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。

・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間４回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。

・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。

・所蔵図書資料を充実させる。

・利用する人が快適に過ごせるよう、図書室の環境を整える。

・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

［目標設定の理由］

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかなくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、１カ月半から２カ月程度を目安とした年間６回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間４回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

【事業計画】

学校との連携

１　中学生のための美術鑑賞教室の開催　　14 回

中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を開催します。

⇒８月１日（土）～11 日（火）まで全 15 回の鑑賞教室を実施し、保護者を含め 197 人が参加しました。また、鑑賞ガイドを 2,500 部作成し、７月 25 日（土）以降に来館した中学生に受付で配布したところ、８月中に全てを配布することができました。参加者数は昨年より８％増加しています。なかでも保護者の割合が高く、昨年の保護者数に対して 15％も増え、全体の雰囲気に影響を与えるほどになっています。

２　「美術鑑賞会」の受け入れ（市内全小学校６年）　　46 回

市立の全小学校６年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。

⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。

３　出前授業の実施　　随時

学校教育と連携し、美術館職員が学校に出向き、授業の中で美術館アートカード等を用いた美術教育を実践する出前授業を実施します。

⇒アートカードを用いた授業について、出前ではありませんが、学芸員が見学に出向き、学校で行われている鑑賞の授業の実情把握に努めています。

４　職業体験の受け入れ　　随時

子どもたちが美術館での仕事を体験する職業体験の受け入れを行います。

⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。

５　学芸員実習の受け入れ　　随時

⇒８月 20 日（木）～26 日（水）の７日間、５名の大学生を受け入れました。

６　教員のための研修　　随時

美術館の所蔵作品やアートカード等の教材を活用した鑑賞教育についての研修を行います。

⇒８月 19 日（水）、教育研究所において、アートカード関連の実行委員会の主催で、教員向けの活用講座を実施し、20 名の参加を得ました。

子どもたちへの美術館教育

１　ワークショップの開催　　10 回

子どもたちが美術に親しめるようなワークショップ事業を開催します。

・展覧会関連ワークショップ、子ども向けワークショップ

開催：５月、10 月　　定員：40～60 名程度（事前申込制）

⇒ほっこり展関連で１回、また、展覧会関連以外でも、親子向けワークショップを２回行いました。当初計画を順調に進めています。

2　映画上映会の開催　　２回

気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会を開催します。

開催：夏　　定員：なし（当日自由参加）

⇒８月 29 日（土）、30 日（日）に「グーニーズ」の上映を行いました。29 日は 288 人の参加がありましたが、30 日は雨天のため、ワークショップ室での実施に変更し、40 名の参加となりました。

⇒野外シネマの日程に合わせ、８月 27 日（木）、28 日（金）に、企画展で取り上げた「ウルトラマン」の野外上映を子ども向けイベントの一環として行いました。平日にもかかわらず、２日間で 290 人の参加がありました。

⇒野外上映のスタイルは、当館の夏の恒例イベントとして定着しており、期待値の高い事業であることが裏付けられたと考えます。

3　親子ギャラリーツアーの開催　　４～５回

親子で美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。

⇒ウルトラマン展では 2 回の実施に対し、それぞれ３組、５組の参加がありました。一方、ほっこり展では１回の実施に対し、３組と決して多くありませんでした。全ての展覧会で実施するよりも、親子での参加にふさわしい内容の展覧会の際に、確実に実施することが重要ではないかと考えます。

4　保育園との連携　　20 回

市立保育園 10 園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」の２つを行います。

⇒年度当初の計画に準じ、順調に受け入れを進めています。

【達成目標】　中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

［目標設定の理由］

・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととしています。特に夏季には、家族で楽しめる美術館であることをアピールするよう心がけ、平成 26 年度については「子どもと美術を楽しみたい！キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展」を開催しました。その結果、特に幼児の観覧者数が前年より大きく増加しました。今年度も、この方向性を維持していくことを前提に、美術館でなければできない子ども向けの事業を行います。しかし、市全体の 14 歳以下の人口が減少していることや、子ども向け事業の対象からははずれる中学生の観覧者数が横ばいもしくは減少傾向であること、また、平成 27 年度より、収支改善の取り組みとして子ども向けワークショップの参加を有料化する予定であることなど、中学生以下の観覧者数が容易には増加しにくい条件がいくつか見られることを考慮し、平成 27 年度の目標は、これまで通り 22,000 人としました。

（中学生以下の観覧者数）　　（単位：人）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度（目標）
幼児	4,314	5,358	9,216	6,000
小学生	11,301	11,819	12,851	12,000
中学生	3,881	4,119	4,003	4,000
計	19,496	21,296	26,070	22,000

⇒現時点で人数は確定していません。なお、今年度、比較的多く見受けられる横須賀以外の近隣他都市（三浦や横浜など）の小学校や特別支援学級の来館の際に、市内の学校と同様、引率教員との事前打ち合わせなどを積極的に行い、質の高い鑑賞支援ができるよう努めて、人数だけでなく質的な面でも、よりよい美術館のあり方を目指しています。

【実施目標】

・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。

・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。

・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。

・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。鑑賞会と連動した教材「アートカード」のいっそうの活用促進を教員と協力しながら行う。

［目標設定の理由］

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成 23 年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。

学校教育ではできない、美術館だからこそできることは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵する美術品約 5,000 点の管理を行います。

1　美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）

美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。

（1）　横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
（2）　横須賀・三浦半島を題材とした作品
（3）　「海」を描いた作品
（4）　日本の近現代を概観できる作品
（5）　その他、上記に関連ある国内外の優れた作品

寄贈、寄託の申込のあった作品について、当館の収集方針に合致するかを検討し、作品の来歴や状態を調査します。

収集方針に沿った作品について受入の可否を美術品評価委員会で審議いただき、委員会終了後、収集の承認を受けた作品について受入手続きを行います。

⇒平成 27 年度の収集作品は美術品評価委員会を経て決定するため、現時点で今年度の収蔵作品は未定です。

2　所蔵作品の管理（修復・額装及び作品の貸出）

作品の修復・額装について、作品の状態、展示計画などに即して適切に行います。

作品の貸出について、展覧会内容、会期、巡回先など内容を吟味した上で、適切に手続きを行います。

⇒作品の修復・額装は、作業に時間がかかることから所蔵品展での展示や他館貸出予定がある作品を優先し、平成 27 年 4 月～9 月に 9 点の額装を行いました。

作品貸出件数（9 月末まで）は 5 件 32 点で、昨年度同時期の 4 件 4 点よりも多くなっていますが、これは笠間日動美術館で開催の「孤高の画家　熊谷守一と朝井閑右衛門」へ朝井閑右衛門作品 28 点を貸出したためです。また、企画展「ほっこり美術館」に三岸好太郎《金魚》を展示するなど所蔵作品の活用に努めています。

3　環境調査の実施　　年２回

作品を保管する収蔵庫、保管庫およびその周辺（搬入口、荷受荷解室）について、環境調査を実施します。

⇒5 月 11 日～6 月 12 日、8 月 18 日～9 月 18 日の日程で実施し、概ね良好な結果を得ました。

4　美術品評価委員会の開催　　年１回

美術品の収集について、専門的見地から審議いただく美術品評価委員会を開催します。

⇒平成 27 年度の委員会を平成 28 年 1 月～3 月に実施の予定です。

【達成目標】環境調査の実施（年２回）
美術品評価委員会の開催（年１回）

［目標設定の理由］

美術館としての基本的な活動として、作品収集を行っていますが、購入費（基金）が充当されていないため、寄贈に頼っているのが実状です。したがって、数値目標として新規収蔵作品の数量等を設定することは不適切であると考えます。そうしたなかで、収集のための情報収集や調査を継続的に行うことの結果として、受け入れの可否を諮問するための美術品評価委員会を、年に１回開催することを数値目標とします。

また、収蔵庫の環境が作品の保管に適しているかどうか調べる環境調査を、年 2 回実施することを、あわせて目標とします。

【実施目標】

・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

［目標設定の理由］

・すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

Ⅲ　訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【事業計画】

1　運営業務

受託事業者との連携を図り、利用者にとって心地よいサービスを提供します。

・受託事業者との定期的なミーティングの実施による情報共有
（運営事業者連絡会議－月１回、朝礼－毎日）
⇒計画通りに実施し、連絡不足による問題の解消に努めています。

・受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握
⇒受付スタッフからの日報を受けて、課題や苦情の把握に努めています。

・館内巡回による清掃状況及びスタッフ対応等の確認（毎日）
⇒担当係長による巡回をほぼ毎日実施しています。

・レストランと連携した企画展ごとのコラボレーションメニュー提供の継続
⇒継続実施しています。

・付帯施設（ショップ・レストラン）に対するアンケート結果等を提供し、協力して改善を図る
⇒月１回の運営事業者会議にてアンケート結果を提供しています。

・モニタリングによるホスピタリティ調査の実施

2　維持管理業務

施設、設備の維持管理に努め、利用者にとって心地よい空間を提供します。

・中長期修繕計画作成の継続
⇒随時、微修正を行っています。

・案内サイン台帳の作成

・屋外への簡易休憩場所設営の継続実施
⇒8 月・9 月の土日祝日を中心に、ワークショップ室前にテーブルとチェアを用意しています。好評につき継続実施します。
また、問合せがあれば、三軒家園地の東屋もご案内しています。

【達成目標】

・館内アメニティ満足度　90%以上
⇒93.3%（9 月末現在）

・スタッフ対応の満足度　80%以上
⇒86.5%（9 月末現在）

［目標設定の理由］

・これまで目標値が一定ではなく変動していましたが、一つの適正基準を設け、それに対しての達成度による評価をしていただくよう、目標設定しました。

・達成目標の適正基準として、それぞれ 90%以上、80%以上を設定しました。

この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。

・満足度は、来館者アンケートの質問８項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい２項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。

・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24 年度から５段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
館内アメニティ満足度	87.6%	88.8%	89.9%
スタッフ対応の満足度	79.1%	78.5%	81.9%

【実施目標】

・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
・運営事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

［目標設定の理由］

・横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。

・また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。

・美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

【事業計画】

1　福祉活動講演会の開催　　1回

さわれる彫刻や絵画など、誰もが美術に親しめるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。大学等、関連機関への広報を行います。

⇒「ミュージアムをもっと身近に～視覚障害者の立場から」
日時：8月2日（日）14時～（参加者　28名）
講師：オエル・コルヴェスト（シテ科学博物館学芸員）
内容：ミュージアムと視覚障害者をより近づけ、両者の関係を深める仕事に従事するコルヴェストさんの 20 年にわたる活動をお話いただきました。視覚障害者が展示物にアクセスしやすいよう、館全体で話し合いを重ね、よりよい方向へ博物館の活動を広げていく様子は非常に刺激的で、館スタッフとして学ぶところが多かったです。参加者も、博物館側が試行錯誤しながら視覚障害者を受け入れようとしている姿勢に共感を持ったようでした。

2　障害者向けワークショップの開催　　1回

障害のある人を対象に、美術を楽しめるワークショップを開催します。

⇒2月に、視覚障害者および晴眼者を対象とした、鑑賞＋創作ワークショップを予定しています。

3　障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催　　12回

障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。年度末に、ワークショップ室において一年間の成果を展示します（共同制作した大型作品の展示）。

⇒4月より毎月1回開催し、回によっては定員を大きく上回る申込者があります。継続して実施することで、参加者は講師とより深い関係を築くことができています。見学やボランティアの希望も多く、有意義な活動であると言えます。利用者は延べ99名となっています。

4　パフォーマンスの実施　　1回

誰もが様々な美術表現に親しめるよう、美術家によるパフォーマンスを開催します。

⇒2月に、心身障害児を対象に、五感をテーマとした活動を予定しています。具体的には、ワークショップ室を感覚刺激空間（スヌーズレン室）にすることを検討しています。

5　託児サービスの実施　　16回

1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向け、託児サービスを実施します。

⇒5月より14回の実施を周知し、うち3回に申込みがありました。利用者は延べ3名となっています。

6　未就学児ワークショップの実施　　1回

就学前の子どもたちが美術に親しめるようなワークショップを開催します。

※「6　未就学児ワークショップ」は27年度より、対象年齢や性質を考慮し、評価項目「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」から「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える」へ移動します。

⇒3月に開催を予定しています。

【達成目標】　福祉関連事業への参加者数延べ400人以上

［目標設定の理由］

・福祉関連の事業は、対象を限定すればするほど参加者数が減る傾向にあります。しかし一方で、対象を限定した事業展開こそ必要な分野でもあります。

・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、平成27年度の事業内容を考慮し、400人以上を平成27年度の目標値としました。

（福祉関連事業への参加者数）　　（単位：人）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	*平成27年度（9月末現在）*
講演会	29	29	31	*28*
障害者向けワークショップ	19	26	50	*未実施*
みんなのアトリエ	169	214	191	*99*
パフォーマンス	55	125	151	*未実施*
託児	23	27	34	*3*
未就学児ワークショップ	38	98※	39	*未実施*
計	333	519	496	*130*

※ 未就学児ワークショップは実施年度により、子どものみの参加の場合と、親子参加の場合があります。25年度は親子の合計人数。

【実施目標】

・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。

・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。

［目標設定の理由］

・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。

・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。

・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

【事業計画】

・エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。

・サービスを低下させず、経営的な視点で委託業務の業務内容の見直しを行います。

⇒パンフレット制作の一部を手刷りのものに変更することでコスト削減を図っています。

⇒各事業の目的や実施効果を再確認し、事業を進めています。２社以上からの見積合せを実施することで、経費の削減に取り組んでいます。

・四半期毎に消費エネルギーの数値等を職員全員に周知し、コスト意識の啓発を図ります。

⇒毎月の電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を管理し、四半期ごとに職員ミーティングの際に報告し、要因を考えるとともに次の四半期に向けたコスト意識を持った事業活動の啓発を図りました。

⇒年度初めの職員ミーティングでは年間の目標を共有しました。

【達成目標】　電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近３年間の平均値以下とする。

［目標設定の理由］

・美術館の総事業費の約 14.5%を占める電気料、水道使用料、下水道使用料は、達成目標を定め管理していく必要があります。

・職員が努力した効果を目に見えて感じることができる目標として、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近３年間（H24～H26）の平均値以下を当面の目標とします。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度（目標）
総電気使用量(kwh)	2,559,600	2,571,895	2,582,595	2,571,000
電気使用量(昼間)(kwh)	1,696,578	1,754,173	1,800,387	1,750,000
電気使用量(夜間)(kwh)	863,022	817,722	782,208	820,000
水道使用量(㎥)	4,227	4,055	4,077	4,100
事務用紙使用枚数(枚)	216,595	209,241	216,104	213,000

【実施目標】　職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

［目標設定の理由］

・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。